

開倫塾の塾生である間に「効果の上がる学習方法」を少しずつでも身に着けよう

—「理解・定着・応用」の「学習の3段階理論」とは何か？—

開倫塾

塾長 林明夫

Q1 開倫塾では、「各教科の内容」や「定期試験」「模擬試験」「入学試験」「3大検定(英検・漢検・数学検定)」などのテスト対策だけでなく、「効果の上がる学習方法」特に「学習の3段階理論」をかなり熱心に指導しているようですが、なぜですか。

A (1)開倫塾を創業以来、本年で44年になりますが、開倫塾で学ぶ「塾生」(開倫塾で学ぶ皆様のことを「塾生」とお呼びしています。御了承ください)「保護者」「地域社会」の多くの皆様から毎日のように、「勉強・学習の仕方がよくわからず困っているので、『効果の上がる学習方法』を教えてください」という希望がよせられているためです。

(2)そうであるならば、今までの経験を踏まえ、「効果の上がる学習方法」をまとめ、皆様にお示しすることが、お役に立つのではないかと考えました。そこで、「学習」を「理解」「定着」「応用」の「3段階」に分け、それぞれにふさわしい学習方法を具体的にお示したのが、この「学習の3段階理論」です。作者は塾長の林明夫です。

(3)「学習の3段階理論」は、小学校・中学校・高校だけではなく、大学・大学院・専門学校などで学ぶときも役立ちます。また、社会に出て、仕事や社会的活動をするうえでも、よい人生を送るうえでも、役立ちます。一生、役に立つ勉強方法です。

(4)ですから、開倫塾の「塾生」の皆様は、開倫塾の「塾生」である間に、是非、「学習の3段階理論」を少しずつでも身に着け、学校での勉強だけではなく、社会に出てからもお役に立ってください。一生お役に立ってください。

○塾長自身は、社会の皆様にもこの「学習の3段階理論」を含め「効果の上がる学習方法」をお伝えしたく、37年前から CRT 栃木放送「開倫塾の時間」(毎週土曜日午前9:15～9:25放送)を一人で担当、「社会人を含め、効果の上がる学習方法」を毎週お話しています。是非、お聴きください。



Q2 それではお聞きします。「第1段階」の「理解」とは何ですか。

A (1)「理解」とは、今学んでいる内容について、「うんなるほどとよくわかる」こと、「納得する」こと、「腑に落ちる」ことと、「定義」しています。

(2)「理解」には、「予習」「授業中」「復習」「定着」「応用」など、様々な場面があります。ここでは、「授業中」と「復習」について御説明します。

(3)学校や開倫塾での「授業」で、「理解」をするには、どうしたらよいでしょうか。

①「遅刻」・「欠席」・「早退」をしないことが第一です。

○先生が説明するときに、そこにいないと「理解」ができません。

②「居眠り」「スマホ」「ゲーム」「よそ見」「おしゃべり」などをしていると、先生がいくら熱心に授業をしてくださっても、「理解」はできません。

○「おしゃべり(私語)」は、「他人の理解の妨げ」にもなりますので、避けましょう。



③授業中の態度として一番よいのは、「手を机の上に置き、先生の日や口元をよく見て、一語一句、聞き逃さないように、真剣に授業に臨む」ことです。

○「必要なことはすべてノートにメモし続ける」ことです。

④「よくわからない」「よく理解できない」ことがあったら、先生の「許可」を得て、質問すること(時間がなければ、授業後に質問すること)です。



(4)「復習」での「理解」はどうしたらよいでしょうか。

①授業が終わったら、「必ず、その日学んだことを、もう一度勉強し直す」ことが大切です。

②「教科書・テキスト・ノート」をもう一度ゆっくり読み直し、どのような意味・内容か考えること。

\*ことばの意味がわからなかったら、「辞書」や「参考書」、各教科の「用語集」で調べ、「ノート」や「カード」、「意味調べノート」に書き写し、すべて覚えること。



③「計算」や「問題」はもう一度ノートに解き直してみる。なぜそのような解答になるか考えること。

\*なぜそのような解答になるかがよくわからなかったら、教科別の参考書で調べる。似たような計算や問題を参考にする。

\*それでもわからなければ、遠慮しないで先生に質問してくださいね。

### Q 3 第2段階の「定着」とは何ですか。

A (1)「定着」とは、一度「うなるほど」とよく「理解」した内容を正確に「身に着ける」と、「定義」しています。(「学習の3段階理論」では、「定着」と関連づけ、「身に付ける」ではなく、「身に着ける」と漢字で表記します。御了承ください)

(2)せっかく「理解」しても、「定着」させないと、身に着けないとすぐに忘れてしまいます。

(3)ではどのように身に着けたらよいのでしょうか。「学習の3段階理論」では、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の3つの「練習」を「定着のための3大練習」、3つの大切な練習としておすすめしています。



### Q 4 「音読練習」とは何ですか。

A (1)「教科書」や「テキスト」、「一度解いた問題」や「解答・解説」を「スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習」です。

(2)何回も、何十回も、読む練習をして、できれば大切なところは何も見ないで言えるまでにする「暗唱」にも挑戦してください。

(3)英語や国語はもちろん、理科・社会・数学も、教科書をスミからスミまで「音読練習」を繰り返し、スラスラとよく読めるようにする。大切なところはすべて「覚える」「暗唱する」ことです。

(4)「スミからスミまで覚える、暗唱すること」が、「定期試験」で100点満点を取る、「模試」で合格判定を取る、「入試」や「3大検定」に合格する秘訣です。



### Q 5 「書き取り練習」とは何ですか。

A (1)「音読練習」をしてスラスラとよく読めるようになった内容を、書き順も含め正確に書けるようになるまで、「書く練習」をすることです。



Q 8 「効果の上がる受験勉強」とは何ですか。

- A (1) 「受験に出題される全教科」を、<sup>まんべん</sup>満遍なく「理解」「定着」「応用」することです。
- ① 「全く勉強していない教科」、「試験範囲が終了していない教科」を、集中的に学習すること。
  - ② 「学習はしていても、十分な得点ができない分野」、つまり「不得意分野」は、「よくわからないところまで<sup>さかのぼ</sup>遡って」「できるだけやさしい教材」で、学習すること。
  - ③ 入試前日まで、「出題教科」や「出題範囲」の内容を、スミからスミまですべて「理解」し、「定着」させ、「応用力」を身に着けることが何より大切です。
- だからこそ、1日も早く「第1志望校」を決め、「受験生としての自覚をもち、受験勉強をスタート」させることが大切です。
- (2) 過去に出題された問題「<sup>かこもん</sup>過去問」の数年分、できれば10年分を、「試験時間内」に、「自分の力」で「ノート」に解く練習をすること。(1週間に1年分)
- ① 「過去問」を解き終えたら、「自己採点」。
  - ② 「間違えた問題」は、なぜ間違えたかを分析(これを「<sup>ごとうぶんせき</sup>誤答分析」といいます)。
  - ③ 「誤答分析」の結果、基礎力不足なら、よくわからないところまで遡って、「教科書」や「やさしい教材」を用いてもう一度勉強し直す。
  - ④ 「ケアレスミス」なら、「定着のための3大練習」を徹底的に行うことです。
- 「間違いノート」や「まとめノート」を作成することも「超おすすめ」です。
  - 「間違えた問題」は、「できるようになるまで、何回でもやり直す」こと!!
  - 「同じ間違いは2回繰り返さない!!」



Q 9 最後に一言どうぞ。

- A (1) いくら各教科の勉強をしても、「読解力」が不足しては合格点は取れません。
- (2) 自分の意見、自分の考えを問われる問題が増えていますので、「自分で考える力」「自分で思い、考えたことを表現する力」が不足していると、合格点は取れません。
- (3) そこで、「辞書・新聞・読書」に親しみ、「学習習慣」とすることが大切です。
- ① まずは、「辞書」を活用して、自分が知っている・身に着けている「語句」の数(語彙数)を増やすことが第一。調べたことは、「意味調べノート」に書き写し、すべて覚える。
  - ② 次に、新聞を毎日30分以上ていねいに読み、世の中の出来事を知り、「自分で考える力」「批判的思考能力」を育成することが第二。興味のある記事は、切り抜いて「スクラップブック」をくる。
  - ③ 更に、読書に親しみ、本は毎日30分～1時間以上読んで「作者との時空を超えた対話」を行い、「思慮深さ」「自省心」「省察力」を身に着けることが大切です。気に入った文章は、「書き抜き読書ノート」に書き抜く。
- 「辞書」・「新聞」・「読書」に親しみ「読解力」を身に着けることは、すべての教科の「授業」「教科書」「教材」「定期試験」や「3大検定」、長文化した「入学試験」などの問題本文・設問などを「理解」することに直結します。

○ 読解力なくして「学力向上」「成績向上」なし、  
「偏差値アップ」「第1志望校合格」なし!!

